

羊蹄を見ながら、まだ誰も滑っていない斜面を滑走。この上ない解放感だった。ただ、二日酔いで滑ると、ふかふかしすぎて気分悪くなるので要注意です…笑



様変わりしたニセコ 変わらないニセコ

高氏 敦（札幌市出身）

3歳からスキーを始めた私にとって、ニセコは家族でスポーツクラブの合宿で滑った思い出の地。民宿や旅館に泊まり、ちよっとした旅行気分も味わえる。ただ、今やスキー場周辺にわたるの姿はない。外資系ホテルがそびえたち、夜歩けば欧米人がぞろぞろ。スキー場近くのセーコーマートは外国人の行列。高価な酒類が次々と売れ、外貨両替機まで置いていた。ここで働けば、外国行かずして英会話が達者になること間違いなし！

その中でも変わらないもの。それはリフトで上がると見える蝦夷富士と呼ばれる羊蹄山だ。青空に映えるこの美しい山を、3年ぶりに見ることができた。そして、変わらない最たるものが最高品質のパウダースノー。朝



3年ぶり

小西 将（苫小牧市出身）

道南会を、春うららかな3月5日に13名の参加で3年振りに八丁堀の中華料理店「長安」で開催しました。

まずは自己紹介から始まり、コロナでなかなか会えなかった間のことなど、お互いの健康状況など情報交換が飛び交いました。中華料理も餃子・棒棒鶏・青椒肉絲・鶏の唐揚げ・エビチリ等々そうとうのボリュームで、とってもおいしい料理をたらくく食べました。また、飲み放題でしたので、皆さん調子よく酔いもまわり、安藤さん（室蘭市）得意の宴会芸、皿回しや手品などで大いに盛り上がり二時間半の予定が大幅にオーバーしてしまいました。みんな楽しく別れがたかったのか、次回の予定を夏ごろにということをやっと散会となりました。その後ラオケに向かった元気な方もおられました。

男子駅伝を振り返って

広島道産子会応援団長・三上 了一（札幌市出身）

令和5年1月22日の広島朝は曇天に包まれていた。我々北海道応援団にとって、そこまでは何もかも順調だったのに、なにかおかしい。テントの場所がこれまでと違うせいか、それとも帆立の香りがしないせいか。わけがわからん。そんなモヤモヤのなか、全国都道府県駅伝競走大会はその幕をあげた。これまで「太田」が、「菊地」が、「小椋」がそして幾多の名選手たちが作りあげてきた栄光の北海道駅伝チームの調子がなにか狂っている。

まず、トップバッター大橋の調子がよくない、2区の斎藤も3区の小松までもどうもならない。そのあとズルズルと、4区野崎・5区廣田・6区前田と流れを取り戻せず、そして、アンカーの藤本に棒が回ってしまった。ああ万事休す。

しかし、そんなことはどうでもいい。豊平川に流しちやえ。そのかわり、後輩たちにいろいろ教えてやってくれ。そして、また広島に来てくれ。「走れ北海道駅伝チーム！」

そしてその夜、慰労会。今年は開催できました。2年もこの日を待っていました。

駅伝の結果は結果として、広島でふるさと北海道を思う気持ちを選手役員の方と共有できたことは、とっても有意義な時間だったと思います。

来年以降に今日の悔しさだったり、貴重な経験を生かしてほしいと心から思った。



ふるさと通信

エスコンフィールド 北海道のご紹介

清川 一郎（札幌市在住）

広島の皆様へ、ご無沙汰しております。2021年7月より札幌在住となりました清川です。広島では色々なイベントでお世話になり、良い思い出がたくさんできました。ありがとうございます。

今回は、私の方から2023年3月、北海道北広島市に北海道日本ハムファイターズの新球場「ES CON FIELD HOKKAIDO」（以下、エスコンフィールド）が開業します。そのご紹介をいたします。

北海道北広島市は、札幌市から車で約16分の距離にあり、札幌市と隣接している街です。市名の由来は、ご存じのように開拓者の出身地が広島であったことが由来とされています。

エスコンフィールドの敷地面積は5ha、収容人数は3万5000人です。広島市民球場（マツダスタジアム）と比較すると、敷地面積は5ha、収容人数は3万3000人であり、規模についてはほとんど同じと言えます。

さて、2023年1月に竣工式が行われましたが、竣工前に大きな話題になった件があります。ホームベースからバックネットまでの距離



HOKKAIDO BALLPARK, ERONET

が約15mであり、公認野球規則の約18mを満たしていないことが明らかになりました。2023年シーズンでの使用は許可されましたが、2023年・2024年のシーズンオフを利用して改修することで最終的に完成します。

球場の特徴として、まず挙げられるのが、日本初の開閉屋根付き天然芝球場であることです。芝の育成を促すため、南側は一面ガラス壁（高さ70m）にデザインされています（写真）。そして、球場内のレフト側には、エスコンフィールドのランドマークとなるTOWER II（タワー・イレブン）と名付けられた5階建ての施設がオープンします。飲食店はもちろんのこと、世界初の球場内温泉、球場内サウナを楽しむことができる施設です。

また、日本初のフィールドが一望できる球場内ホテルもあり、ホテルから観戦することができそうです。

エスコンフィールドの開業に伴い、球場の近くには新駅「北海道ボールパーク駅（仮称）」も2028年春に開業予定です。現在の最寄り駅である北広島駅では、利用者の増加を見据え、札幌方面のホームを88m延伸する改修工事を終えており、3月のシーズン開幕に向けた準備が整っています。

3月から開幕するシーズンですが、日本ハム・新庄監督が就任してから2年目となります。1年目には全選手を1軍戦に1回以上は出場させる等、育成に力をいれていましたが、2年目は一転、「勝つために鬼になる」と発言しており、優勝を目指した野球が期待できます。

また、今年度から「野球観戦チケット付きバスツアー」をふるさと納税返礼品として追加する等、北広島市はエスコンフィールドの誕生を契機として、街の活性化に力をいれています。2023年シーズンの日本ハム・広島戦は6月6・7・8日となりますので、皆さんで遊びに来てください。北海道お待ちしております。



ふるさと通信 故郷 3,000キロの旅 (孫と共に) 後編

三好 壽子（小樽市出身）

思い出の赤レンガ倉庫群

八日目洞爺から白老のアイヌコタンへ立ち寄り国立になった立派な建物に目を見張り、依然見た昔のコタンの面影が全く無くチョッピリ淋しく感じました。途中、千歳の甥の店のアイスクリーム屋さんへ立ち寄り、ハスカップソフトを食べ、苦小牧のお菓子「よいとまけ」を思い出しました。暗くならないうちに札幌へ、私は江別にある弟の家へ、息子と孫は札幌で泊まりました。

次の日は、姪と合流。テレビ塔・時計台・オリンピック施設・大通公園などを楽しみ、スーパーカー・ジーンズスカンをいただきました。息子は自分が通った幼稚園、住んでいた家を探しあて感激したこと。三泊の札幌を後に小樽で私の両親の墓参をし、運河を歩き息子は札幌から広島へ、私と孫は小樽から舞鶴へと船上の人となりました。

舞鶴では、私が戦後母と中国から引き揚げてきた港へ、そして母も見たであろうレンガ倉庫群を見て回り、旅行最後の昼食、海鮮市場での海鮮丼を食し、一路広島へ向かい最後の車を走らせました。天候に恵まれた二週間、帰り道は雨、でも二人の心はとても晴れ晴れとしていて、3,100キロの故郷二人旅、よく走った愛車の86とよく相手をし運転もしてくれた孫へ感謝をしつつ、この旅を終えました。14日間会った人々、そして初対面の人々もすべて大切にしてくださいました。

道産子って優しいネ！ 故郷っていいネ！



時計台



冬期オリンピックマーク

人 三好 壽子…母 淳…長男 諒…孫